

- 問1 日本とタイの貿易について述べた次の文のうち、近年の状況を正しく説明しているものはどれですか。なお、1993年から2016年にかけて、日本への輸入総額は約2兆円から約5兆円へと拡大した統計データがあるものとします。（2020年 東京都公立入試 類似）
1. 工業化の進展により、日本への輸入額のうち電気機器の占める割合が2割を超えている。
  2. 日本への輸出は依然として米などの穀物が中心であり、工業製品の割合は低下している。
  3. 中国との貿易は縮小傾向にあり、日本企業による独占的な投資が続いている。
  4. 日本企業の進出数は、1990年代と比較して安価な労働力を求めてベトナムへ移転したため減少している。
- 問2 日本の主な発電所の位置をまとめたデータにおいて、中部地方や東北地方の山間部に集中して見られる発電形式（X）と、福井県の若狭湾沿岸や福島県の海岸など、特定の海岸数箇所に限定して分布している発電形式（Y）の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 沖縄県公立入試 類似）
1. Xは水力発電、Yは原子力発電
  2. Xは水力発電、Yは火力発電
  3. Xは火力発電、Yは水力発電
  4. Xは原子力発電、Yは火力発電
- 問3 大分県などの火山地帯で積極的に導入されている地熱発電は、太陽光発電や風力発電といった他の再生可能エネルギーと比較して、電力供給においてどのような利点がありますか。最も適切なものを選びなさい。（2021年 佐賀県公立入試 類似）
1. ダムを建設することで、周辺地域の治水や利水を兼ねられる点
  2. 発電時に二酸化炭素を排出する量が、石炭火力発電よりも多い点
  3. 装置が非常に小型であるため、都市部の住宅街でも容易に設置できる点
  4. 天候や時間帯に左右されず、年間を通じて安定した発電が可能である点
- 問4 日本の工業の変遷において、1970年代以降に交通の便が良い内陸部へ工業が拡大した現象が見られます。この内陸部へ進出した工業の種類と、その主な立地条件の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2016年 滋賀県公立入試 類似）
1. 原油を加工してガソリンや薬品を作る石油化学工業 — 関連工場をパイプラインで結びやすい臨海部
  2. 集積回路（IC）や自動車部品などの機械工業 — 高速道路のインターチェンジ周辺や空港に近い場所
  3. 海外から輸入した原木を加工する製紙・パルプ業 — 大量に水を消費するため、一級河川の下流にある平野部
  4. 鉄鉱石や石炭を輸入して利用する鉄鋼業 — 大型の船が接岸できる水深の深い港を持つ海岸沿い
- 問5 日本の国内旅客輸送において、1960年当時はわずかな割合であった航空機が、現在は中・長距離の移動で重要な役割を担うようになった背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）
1. 航空機は、鉄道や自動車に比べて一度に輸送できる貨物の重量が最大であるため、旅客よりも貨物輸送を主目的として発達したため。
  2. 国民の所得向上やビジネス・観光における効率化が重視されるようになり、移動時間を大幅に短縮できる高速な移動手段の需要が高まったため。
  3. 航空機は燃料の消費効率が他の輸送機関より極めて高いため、短距離の移動においても自動車より安価な運賃が設定されたため。
  4. 日本の地形は平坦で障害物が少ないため、滑走路の建設コストが鉄道の線路建設や維持コストよりも常に安く抑えられたため。
- 問6 日本における原油の輸入動向と、その背景にある日本のエネルギー供給上の課題を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）
1. かつては中東への依存度が高かったが、近年は石炭と同様にオーストラリアからの輸入が急増し、特定の地域への依存問題は解消された。
  2. 輸入先の約8割がサウジアラビアやアラブ首長国連邦などの中東地域に集中しており、現地の情勢不安が日本の経済に大きな影響を及ぼすリスクがある。
  3. アメリカ合衆国からの輸入が半分を超えており、日米貿易摩擦を避けるために意図的に中東からの輸入割合を減らしている。
  4. 二酸化炭素の排出を抑えるため、原油の輸入量は天然ガスを上回らないよう法律で厳しく制限されており、輸入先も近隣のアジア諸国に限定されている。
- 問7 中部地方の高原地帯で行われている農業について説明した文として、正しいものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 茨城県では、冬の温暖な気候を活かして、夏野菜であるレタスの出荷を冬に行っている。
  2. 高知県では、ビニールハウスを利用して、レタスの出荷時期を春から夏へと早めている。
  3. 宮崎県では、広大な平野と灌漑施設を利用して、レタスの二期作を行っている。
  4. 長野県では、夏の涼しさを活かして、本来は秋に収穫されるレタスなどの出荷を夏に行っている。
- 問8 日本の貿易統計において、2014年時点での中国への輸出額がオーストラリアへの輸出額の5倍を大きく超える（約8.9倍）など、アジア諸国との結びつきが強まっています。このように中国との貿易額が極めて大きくなった背景として、最も適切な理由を説明しているものはどれですか。（2016年 長崎県公立入試 類似）
1. 中国において農業が衰退し、日本から主食である米や小麦などの農産物を大量に輸入しなければならなくなったため。
  2. 日本政府がアメリカとの貿易を禁止する政策をとり、その代替として中国やオーストラリアとの取引を強制的に増やしたため。
  3. オーストラリアが日本との貿易を制限し、鉄鉱石や石炭などの資源をすべてアメリカやヨーロッパに輸出する方針に転換したため。
  4. 中国が「世界の工場」として急速な経済成長を遂げ、日本企業が現地の拠点へ部品（中間財）を送ったり、現地から製品を輸入したりする構造が定着したため。
- 問9 農林漁業者が、自ら生産した農作物などの「第一次産業」に加え、食品加工などの「第二次産業」、さらには流通・販売などの「第三次産業」までを一体的に行う取り組みがあります。これらの産業の数字を掛け合わせた名称で呼ばれる、農村の所得向上を目指した取り組みを何といいますか。（2022年 山形県公立入試 類似）
1. 六次産業化
  2. スマート農業
  3. 近郊農業
  4. 地産地消
- 問10 堺市の人口分布と交通網の関係について、統計上の事実に基づいた説明として正しいものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
1. 堺市内で最も面積が大きな区が、最も人口密度が高くなり、すべての鉄道路線が集中している
  2. JR阪和線や南海電鉄などの既存の鉄道網は、人口密度が低い地域に限定して配置されている
  3. 堺市内の全区を網羅するように地下鉄が整備されており、区ごとの人口密度の差はない
  4. 人口密度が最も高い北区には、地下鉄御堂筋線が乗り入れ、都市の利便性を高めている
- 問11 人口ピラミッドの底辺部分が年々狭まり、全体の形が「つぼ型」へと変化していく背景にある、現代日本の社会的な要因の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2016年 愛媛県公立入試 類似）
1. 第3次ベビーブームによる出生数の増加と、海外からの移民受け入れによる人口増
  2. 乳児死亡率の上昇による子供の減少と、都市部への人口集中による過密化
  3. 出生率の低下による子供の減少と、平均寿命の伸びによる高齢者層の拡大
  4. 高度経済成長に伴う労働人口の増加と、若年層の地方移住による過疎化